

ぞうまん人生

第27号/令和5年2月8日発行

発行所：楽習サロン…いちごカフェ

発行人：石代 強 ☎ 070-5596-1051

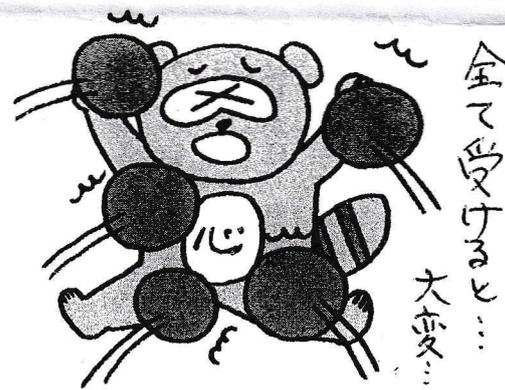
メール：tsuyoshi15@willcom.com

● 身体も、口からでる言葉も、動かすのは…殆どが自分の心ではないでしょうか！

ある小学校の先生が生徒に言います。黒板に大きな文字で“言葉”と、その横に“大きな木”を描き…その木の枝に葉っぱを沢山描き…言います。『皆さん、言葉という字は[言う葉っぱ]と読めます。この大きな木に葉っぱが少ないと、淋しく見えますよね！葉っぱが沢山あると豊かに美しくも見えます。皆さん…この葉っぱ（言葉）のように、沢山の葉っぱがあると…この木のように人生が豊かにもなります。世の中には、面白い・楽しい言葉やためになる言葉があちらこちらにあります。そんなステキな言葉を身につけると人生変わりますヨ！…どうぞステキな言葉を沢山つけて、この木のように葉っぱを沢山増やして下さいネ』

小学校でこのような先生に出会ったらラッキー～ですよ。言葉の豊かな人と貧しい人では、人生の時間の濃さや生きる広さも違うような気がします。良いも悪いも“言葉”は天からのギフトだと思っています。自分の受取り方、返し方ひとつで良くも悪くもなります。ホンの数秒で私達の心に劇的な変化をもたらす“力”が言葉にはあります。

人は十人十色…だからこそ人とのコミュニケーションで、自分の言葉や心も磨かれます。大自然からのギフトもあります。その時その瞬間の心のもっていき方の積み重ねが“自分力”の分母を大きくします。受容力も深くなります。身体も口（言葉）も動かすのは自分の心なんですネ！



● “いい加減の湯かげん”…と言う言葉はよく聞きますが…日頃、意識していますか？

入浴時のお湯かげんは、人それぞれによって熱かったり、温かかったり、丁度良かったり…と感じ方が違うので、自分の湯かげんだけで物事の善し悪しを決めるのは危険ですヨ。…と言う教えですよ。…つい最近「運動場」という題で、小学4年性の詩に出会いました。

『遊んでいる時は 狭い狭いと言うて遊んでいる 朝会あさいのときに石を拾ひろわされると 広い広いと言うて拾ひろうている』。…すごい感性だなあと思っていました。心の置きどころで、顕著に心持ちが変わる。同じ運動場なのに…その心持ちの変化にフツ気付き、素直に言葉がでてきたんでしょうネ～！

ひと日の中に、大小数えきれない程の“選択”を重ねて生きている私達です。物事の受け止め方も、自分の持っている価値観に左右されがちです。何かあり、選択肢に迫られた時…まずは、もう一人の自分に問いかけてみてはいかがでしょう！自分の価値観に拘りすぎないかどうかを意識してみてもいいでしょう。相手側の立場（気持ち）になって考える事も必要ではないでしょうか！その“流れ”を自分の“魂の部分”に入れたら…責め・怒り・嘆き…等々は、随分と少なくなるように感じます。

★たった“ひと言”の“言葉”が…“言刃”^{ことば}に変わり、人生をガラリと変えます

日頃の習慣（意識）の積み重ねで、善意識は高められます。私達は“神”ではないので、悔や



● 幾つになっても…フイッと湧きでる“気付き”には心が洗われます

月に二度開いている趣味の会では、初めに全員で発声練習をします。“あ・え・い・う・え
お・あ・お”から始まり、最後はリャ・リエ・リョで終わります。ある日、ある方が『そ〜うい
ば…ガ・ギ・グ・ゲ・ゴは日頃使うけど、カ・キ・ク・ケ・コ（半濁音？）は殆ど使わないネ
』と。…なる程…そう言われてみるとカ・キ・ク・…って、あまり聞かないなあ…と納得。帰宅後
にコーヒーで一服…で、ひと口飲んでゴクリっといった瞬間…閃きました。
あれ…“俺カ俺カのカではなく お陰（かゲ）お陰（かゲ）のゲで生きよ”
とか、有り難い（がたい）や鍵（かギ）・午後（ゴゴ）・潜る（もグる）
等、いろいろ出てきました。国歌の“君が代”もカとしての発音でした。
★私の名前の“つよし”にも新たな発見がありました。文字にも、モノや
動物や人間（にんげん）と同じく魂がある…と教えられました。「つ」は
普通に発音しますが、小文字の「っ」は発音すると音声から消えます。『良かった』とか『たっ
た今』とか…流れの中でしか「っ」は表現されません（笑）。けれど無くてはならない小文字な
んですね〜。見えない“モノ”…日頃感じにくい“モノ”にこそ、ナニかの大事な気付きが隠さ
れているんですね〜。こういう“新しい発見”が生活の中に潜（ひそ）んでる事を再認識させられました。



● 10年前の“強”へ……10年後の“強”から…感謝・応援のメッセージ

今年（今年）は2033年…あれから早や10年経ちました。よくここまで顔晴りました。よく“鰻の
ような人”とか言われながら…人に笑われ笑わしたりで…この10年…泰然自若（がんぼ）？をよそおって
（笑）生きてきましたネ。ご先祖さんや、守護霊・神仏に見守られて、大病
や怪我もせずここまでできました。良かったネ。アルバム500冊の整理。
DVD映画2000本のまとめ、短歌集・ジョーク集のノート作りと…コツ
コツと取り組みました。△◇▽だらけの部屋も、大部スペースが空きました。
身内や友人…一人一人欠けていく中で、つらい・淋しい日々もあったが…
持ち前の鈍感力で、よく受け入れてきました。…あとは、独眼流でここまで
生き抜いてきた“生き様？”“生きるコツ？”等を、簡素本にして…孫たちに残してはいかが
かな！…検討してみてください。



人は死ぬまで生きます。大往生
でも、突然でも逝く時が寿命で
す。呉ぐれも“フグモナカ★”
だけは食べないように…。残る
人生も“ソワカ★”ですヨ（笑）
★鰻のような〜→掴み所がない
★不足不満愚痴文句泣き言陰口
★掃除・笑い・感謝…の略
(フ) (カ) (モ) (ナ) (カ) (ワ) (カ)

身近にあった小話…1

近所のガストでラン
チし終り、レジに行く
と“60歳以上割引”と
表示が…。年齢証明を
提示すると『見せなく
とも解ります』…どう
いう意味…（プンッ）

● 単短歌コーナー連載 27

『3月3日の雛祭り』

女子は家で楽しく雛祭り、
男子は、海や川に釣りに…
が…全く釣れない…で、で
きた歌…『今日は釣れない
ヒマナツリ…♪』

「ぞうきん人生」…は、こんな意味をこめて、つけてみました

- ある方のお話しでした。「母が亡くなる前…『私の人生は雑巾のような人生だったネお蔭で幸せだった。有り難とう…』』と言って息を引き取りました。安らかな顔でした。考えてみれば、本当に母の人生は雑巾人生でした。私も母のような人生を過ごそうと、その時に決心しました」…と。…そのお話しを聞いて、とても感動しました。…雑巾は汚い所をきれいにしては、自ら汚れを洗い落とし、また汚い所をきれいにしていく。ただただ無心に…。繰り返し繰り返し…。
- そしてもうひとつ…ある有名なお話し…。
ある大店の主人…。偉いお坊さんが見えるというので、女中さんに客間の掃除を言いつけます。ところがその女中さん…ウツカリと床の間にぬれ雑巾を置き忘れてしまいます。お坊さんと客間に入った主人…床の間の雑巾を見てビックリ仰天…女中さんと呼ばれ叱ろうとします。そこで偉いお坊さん…マアアとなだめ、一句…『雑巾は あて字で書けば“蔵と金” あちら拭く（福）拭く（福） こちら拭く拭く』…と記し、物事は全て考ようで、良くも悪くもなるものだ…と諭す。ウン！
- 人生、この一瞬を一瞬を前向きに…。この瞬間を楽しめるように…。自分の持っている愛情がどんどん深くなるように…そんな思いと、反省をこめて作っています。